

## 第 12 回経営・経済動向調査

(社)関西経済連合会  
大阪商工会議所

### 目 次

#### 概 要

1 . 国内景気.....	1
2 . 自社業況.....	2
(1) 総合判断.....	2
(2) 個別判断.....	3
3 . 平成 16 年日本経済の見通しについて.....	5
(1) 来年度の日本経済の実質経済成長率 ( G D P ) について .....	5
(2) 来年 1 年間の日経平均株価の水準について .....	5
(3) 来年 1 年間の円ドルレート水準について .....	6

### 概 要

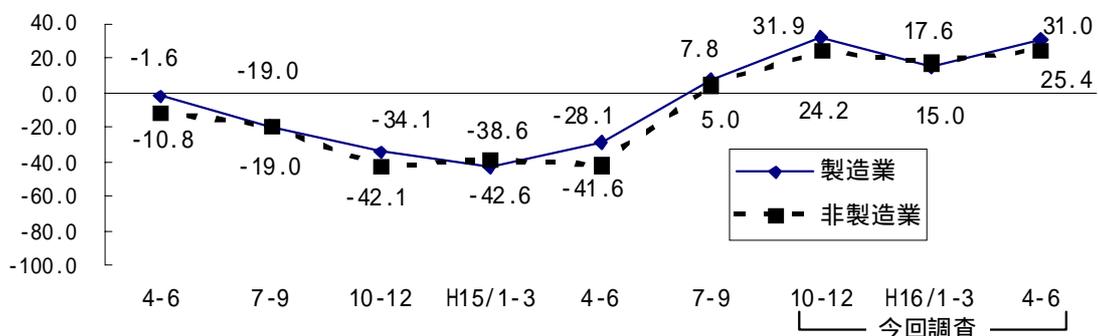
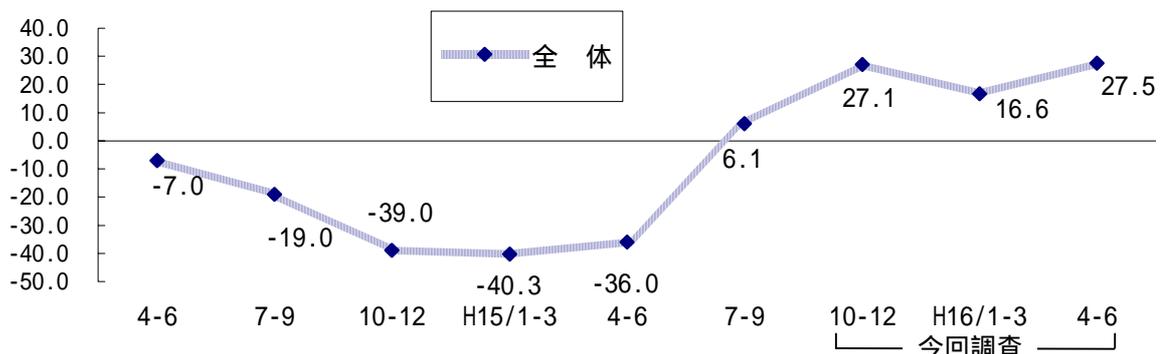
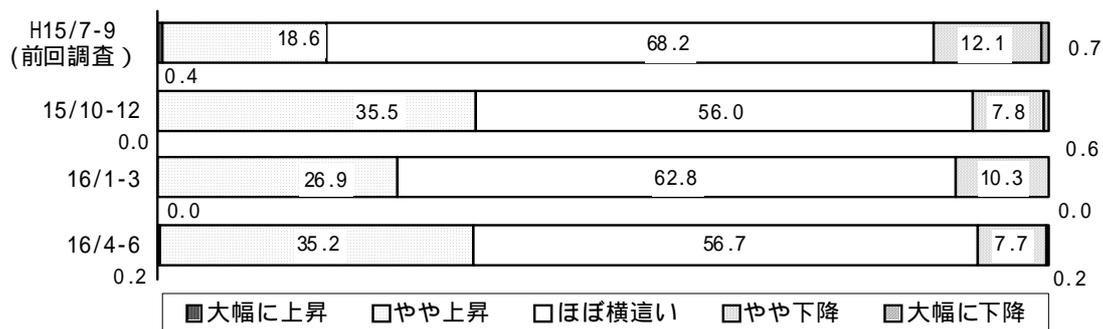
- 1 . 調査対象  
    関経連、大商の会員企業 1 , 9 2 7 社
- 2 . 調査時期  
    2 0 0 3 年 1 1 月 2 5 日 ~ 1 2 月 5 日
- 3 . 調査方法  
    調査票の発送、回収とも F A X による  
    四半期ごとに実施
- 4 . 回答状況  
    4 9 9 社 ( うち大企業 2 4 6 社、中小企業 2 5 3 社 )  
    有効回答率 : 2 5 . 9 %

今回調査に関するお問い合わせ先

(社)関西経済連合会 経済グループ 青山・高島 TEL : 0 6 - 6 4 4 1 - 0 1 0 2

## 1. 国内景気

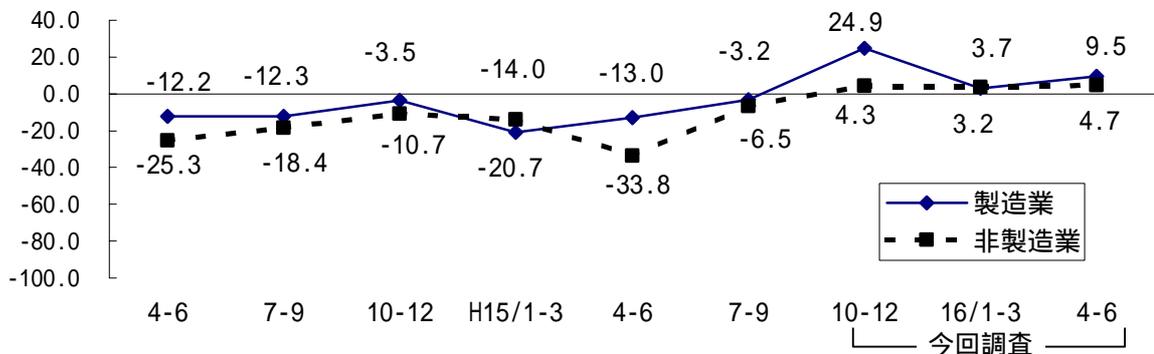
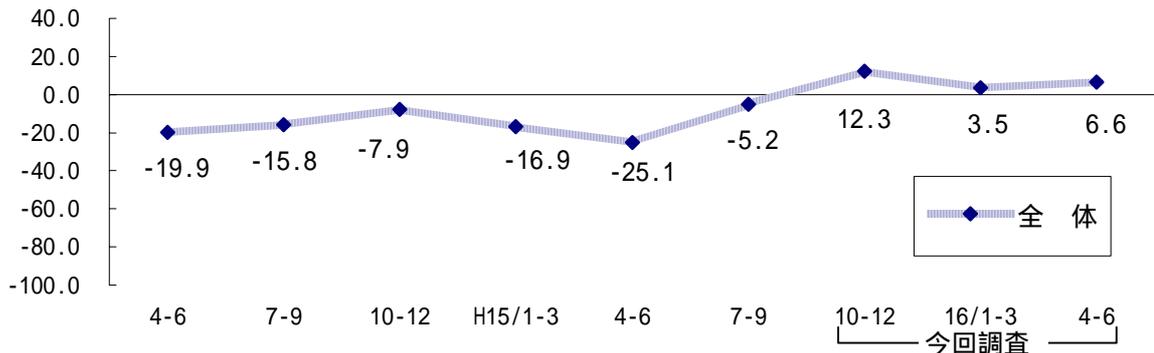
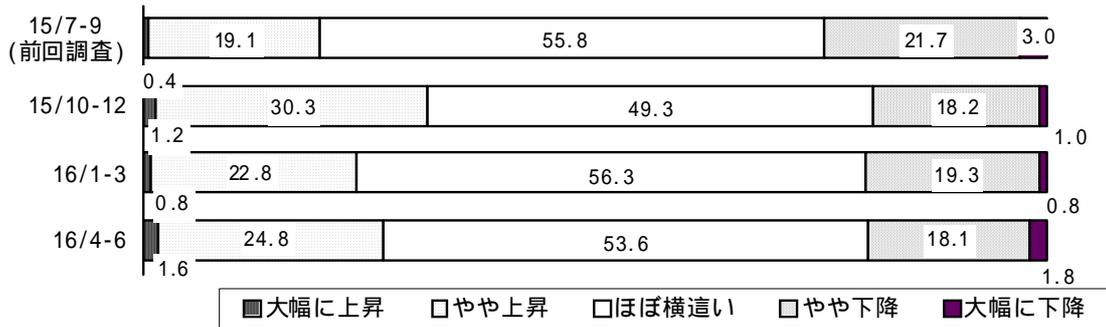
- ・10～12月期の実績見込を7～9月期と比べると、「上昇」（「大幅に上昇」「やや上昇」の合計、以下同じ）とみる回答は19.0%から35.5%に大幅に増加し、「下降」（「大幅に下降」「やや下降」の合計、以下同じ）とみる回答も12.8%から8.4%に減少した。これらの結果として、BSI（「上昇」回答割合 - 「下降」回答割合、以下同じ）は、6.1から27.1へと大きくプラスとなった。先行きについても、1～3月期のBSIが16.6、4～6月期のBSIが27.5とプラスとなり、景気に対して楽観した見方となった。前回調査（9月）では、足下が6.1、3か月後、半年後の先行きがそれぞれ20.8、16.8であり、国内景気については、足下と半年後の先行きに期待感がうかがえる。
- ・製造業、非製造業別では、大きな違いは見受けられない。



## 2. 自社業況

### (1) 総合判断

- ・ 自社業況の総合判断については、10～12月期の実績見込を7～9月期と比べると、B S Iは 5.2 から 12.3 へと大きく増加した。国内景気と比べると、一四半期遅れて、足下の業況がプラスに転じ、景況感は好転している。一方、先行きについては、国内景気と違ってやや慎重な見方となっている。前回調査では、足下が 5.2、3か月後、半年後の先行きがそれぞれ 13.2、7.8 であったため、先行きは、前回よりも慎重な見方となった。
- ・ 製造業、非製造業別にみると、製造業、特に、鉄鋼や繊維の素材産業が前回に続き、強気の見方となった。



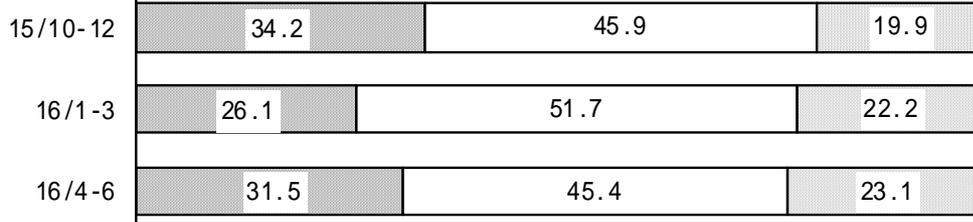
## (2) 個別判断

- ・生産・売上高については、10～12月期は「増加」が34.2%と「減少」の19.9%を大きく上回り好調さがうかがえる。しかしながら、年明け以降は、依然「増加」が「減少」を上回るものの、「減少」回答が徐々に増え、慎重な見方となっている。
- ・製・商品の価格については、10～12月期のBSIは、前回調査の17.9から13.4へと上昇し、デフレ感は依然残るものの、下げ止まりつつある。しかし、先行きについては、前回調査と変わらず慎重な見方となっている。
- ・経常利益については、10～12月期は「増加」が「減少」を上回り、好調さがうかがえる。一方、先行きについては、「減少」が「増加」を上回り、依然「減少」の割合が高く、慎重な見方が強い。
- ・雇用判断については、10～12月期の「過剰」が14.0%と、「不足」7.9%を大きく上回った。しかし、前回調査と比べると、「過剰」が減少する一方、「不足」も増加し、緩やかではあるが、雇用面で明るい見方となった。
- ・製・商品在庫については、10～12月期の「過剰」が17.7%と「不足」2.2%を大きく上回り、依然過剰感は強い。特に、先行きについては、前回と比べ、過剰感がでてくるとの見方が強い。
- ・資金繰りについては、「ほぼ不変」との回答が先行きも含め8割以上を占め、「改善」の見方も漸次増加している。

## 全体集計結果

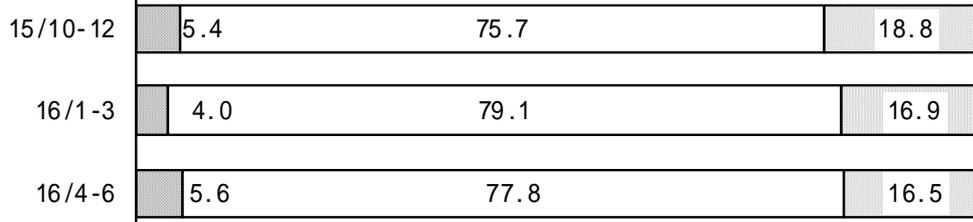
### 生産・売上高

□増加 □ほぼ不変 □減少



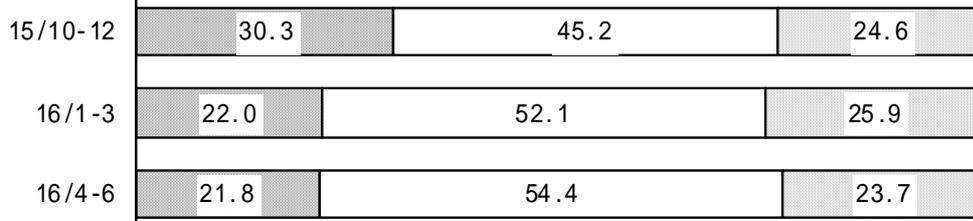
### 製・商品の価格

□上昇 □ほぼ不変 □下降



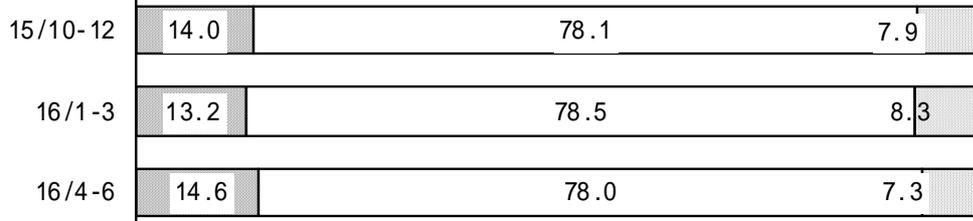
### 経常利益

□増加 □ほぼ不変 □減少



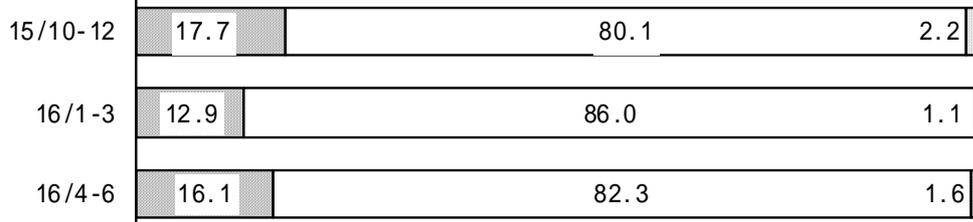
### 雇用判断

□過剰 □ほぼ適正 □不足



### 製・商品在庫

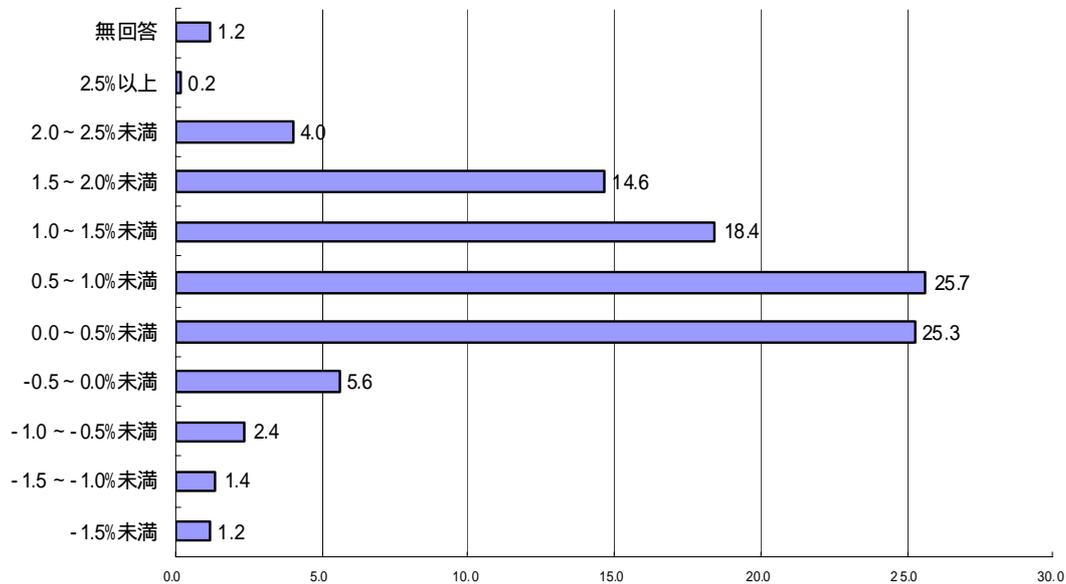
□過剰 □ほぼ適正 □不足



### 3. 平成 16 年日本経済の見通しについて

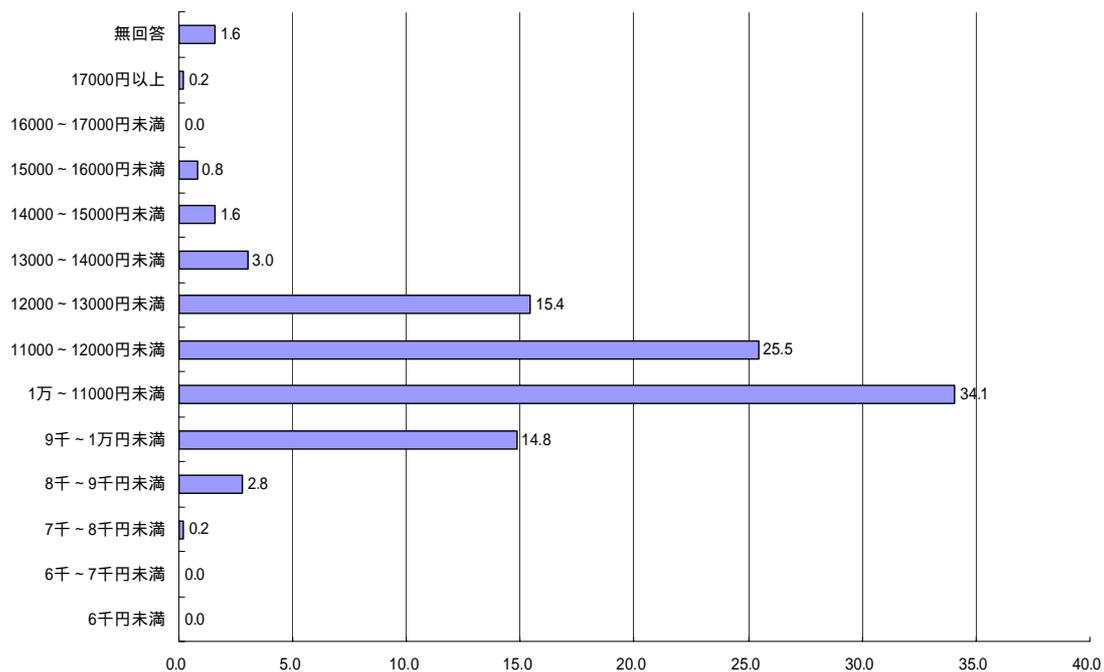
#### (1) 来年度の日本経済の実質経済成長率（GDP）について

- ・「0.5%～1.0%未満」の回答が最も多く 25.7%を占めた。次いで、「0.0%～0.5%」の 25.3%、「1.0%～1.5%未満」の 18.4%、「1.5%～2.0%未満」の 14.6%が続き、プラス成長の回答は 8 割を超えた。
- ・ 1 年前の調査では、プラス成長の回答は 45%程度であったため、景況感は改善している。



#### (2) 来年 1 年間の日経平均株価の水準について

- ・「1 万～11000 円未満」の回答割合が 34.1%と最も多く、次いで、「11000～12000 円未満」の 25.5%、「12000～13000 円未満」の 15.4%が続いた。1 万円以上とする回答は 8 割を占めた。
- ・ 1 年前の調査では、1 万円以上とする回答は 2 割にも満たず、株価回復へ悲観的であったが、今回はやや期待感がうかがえる。



### (3) 来年1年間の円ドルレートの水準について

- ・「105円～110円未満」の39.9%が最も多く、次いで、「110円～115円未満」の27.3%、「100円～105円未満」の17.2%が続いた。100円台とする回答が6割近くを占めた。
- ・1年前の調査では、120円前後の回答が9割近くを占めたが、為替については、ほぼ現状レンジの為替レートを予想する見方が強い。

